

平成25年9月2日

平成25年度 後期授業改善プラン「全体計画」

墨田区立業平小学校長

瀬戸 英一

平成25年5月1・2日に行った学習状況調査の結果を受け、その問題点を分析しながら、本校としての後期授業改善プラン「全体計画」をたてました。この計画に基づいて学力向上への取組を進め、着実な成果が得られるよう、学校全体で実践していきます。

学習状況調査結果の分析と考察

(学力に関する特徴)

- ・ 2～6年の結果の概要を分析すると、2・3年生は目標値に対して平均正答率がすべての観点で上回ることができました。しかし、4～6年では国語と理科で目標値を下回る観点がありました。(特に理科に多く見られる) 昨年横ばい状況だった算数は改善の兆しがみられました。
- ・ 観点別に見ていくと、国語では、3・4・6年の国語の「書く力」と「言語についての知識・理解・技能」が、目標値はほぼクリアしているものの、全国平均正答率をやや下まわっています。特に6年生の「書く力」は全国平均を11.5ポイントも下回っています。(3年—6P、4年—3.4P) また、6年生は全13観点中9観点で全国平均正答率を下回っていますが、先ほどの「書く力」以外は大きな開きではありません。算数では、2～5年生はすべての観点で、目標値を上回りました。理科では「自然事象についての知識・理解」が実施学年(4年生以上)で目標値・全国平均正答率を下回りました。さらに全観点で全国平均正答率を下回っています。社会は実施学年(4年生以上)すべての学年で、目標値も全国平均正答率も上回りました。
- ・ 総合的に判断すると、各学年とも学習環境の改善が進み、教科の基礎・基本が徐々に定着してきているようです。しかし、各学年に在籍する特別な支援を必要とする児童の増加にともない、「個に応じた指導」・「繰り返し指導」・「補充的な学習を取り入れた指導(Remedial教育)」など「指導方法や指導体制」を工夫して、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る必要があると考えます。

重点的に取り組む課題及び課題解決のための目標

★ 重点的に取り組む課題

- ① 授業改善プランにもとづいて毎時間の授業での指導方法や指導体制の工夫、評価を徹底する。
- ② 「学習相談日」、「放課後学習教室」、「特別支援教室」を設定し、補充指導を計画的に実施し、個別指導を強化する。
- ③ 国語「書く力」の向上を目指し、授業改善を全校で進める。
- ④ 理科では、観察・実験を中心とした主体的な問題解決学習に取り組む。

★ 重点的に取り組む課題解決のための目標 < 8つの重点 >

- ① 学習規律（話の聞き方、ノートの書き方等）業平ルールの維持徹底を図る。
- ② 授業改善プランに基づく授業実践 毎時間の授業の中で、「学習のめあて」をしっかり立て、その達成のための指導上の工夫を必ず取り入れ、めあての達成を図る。（授業のP D C Aの確立）
- ③ 個別支援の必要な児童への特別指導を強化し、授業時はなりちゃんルーム（特別支援教室）での取り出し指導、放課後は、「放課後学習教室」を実施し、個に応じたきめ細かい指導を行う。
- ④ 英語活動を中心に研究授業を通して、教員の指導力の向上を目指すとともに、校内研究の充実を図る。また、NT・留学生・保護者ボランティア等と連携し、積極的に授業を公開し、墨田区の英語活動の充実に取り組む。
- ⑤ 算数の授業では、ノート指導の徹底・問題解決型の学習展開の工夫・少人数指導の工夫を図る。また、国語の授業では、多様な文章を書く活動を通して、取材・構成・推敲についての理解の定着を図るとともに、文脈に即した内容を把握し、記述する力を育成する。
- ⑥ 読書コーナーの増設を行い、読書活動をさらに充実させ、読書好きの児童の育成や読書習慣の形成とともに読解力や想像力の向上につなげていく。また、目的に応じて、文章全体の構成を的確に捉え、内容を正しく読む指導を工夫する。
- ⑦ 家庭学習の習慣確立のために、保護者と連携を図り、家庭での学習時刻・時間・場所の設定、などについて働きかけるとともに、日々の授業との

関連を十分に考慮した宿題等の課題を与えることで、適切な宿題や課題の設定とやりきる指導・援助を行う。

- ⑧理科の授業では、体験的な活動を多く取り入れ、既存の経験と関連付けて考察させるなど、実感を伴った理解を図る。

設定した目標を達成するための具体的な取組:取組指標

(1) 知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス

- ・ 指導方法や指導体制を工夫し、「分かる授業」「できるようになる授業」を展開することで、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。そのため、授業時数の確保を確実に行う。(各学年、学級で月末には授業時数状況の点検と確認を行い、確実に教科・領域の指導を行うようにする。)
- ・ 子どもたちの思考力・判断力・表現力等を育むために、資料を使った発表や調べたことを文章に書くことなどの機会を多く取り入れていき、知識・技能を活用する学習活動を各教科で行っていくことが必要である。(図書室に「調べ学習コーナー」を設置)
- ・ 校内研究の充実のために講師を招いて研究授業を7回実施する。授業公開(土曜授業・学校公開)は随時実施し、実践的な研修の頻度を高めていく。(区広報課の取材協力等も積極的に行う)
- ・ 若手教員(初任者、2～4年次)を中心に、指導力向上に向けた授業研究を伴う校内研修会を行う。

(2) 家庭との連携を図った学習習慣の確立

- ・ 学習指導の一貫として、全学級で適切な宿題、課題を継続して出し、家庭での学習習慣を付けさせる。家庭できちんとやれない児童へは、保護者と協力して家庭学習への支援を行う。

- ・家庭での読書習慣を広げるために、6・11月を「読書月間」とし、全員が10冊以上の読書にチャレンジする。読書に関する指導を充実させ、朝読書、図書館ボランティアの読み聞かせ等を活用し、読解力などの確かな学力の向上につなげる。

(3) 個に応じた指導推進のための取組

- ・ 全校で週3回、年間90回程度の「放課後学習教室」を実施する。
- ・ 特別支援教室を授業時での個別指導に生かす。
- ・ 放課後学習教室の内容を充実させるそのため、指導員と担任との連携を密にするための「個人連絡ノート」を活用して、確かな学力の定着につなげていく。
- ・ 個人学習プロフィールを活用して、内容での個別化、きめ細かい指導を徹底する。
- ・ 低学年中心に放課後に個別指導の時間をとって学力向上にあたる。

設定した目標の達成度を測るための検証可能な指標：成果指標

- ①各教科の各種テスト(ワークテスト)の達成度を平均80点以上にする。
- ②年2回の読書月間の取り組みで10冊以上の読破児童を9割にする。
- ③家庭学習の定着で、宿題忘れゼロを目指す。当面10%以下に減らす。
- ④特色ある教育推進校として、SUMIDA ENGLISH を活用した授業公開を積極的に行っていく。また、SUMIDA ENGLISH の学校独自の資料を作成する。